

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 5 月 25 日 (2006.5.25)

【公開番号】特開 2000-278559 (P2000-278559A)

【公開日】平成 12 年 10 月 6 日 (2000.10.6)

【出願番号】特願 平 11-83969

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

G 0 3 B 7/00 (2006.01)

G 0 3 B 17/18 (2006.01)

G 0 3 B 19/02 (2006.01)

H 0 4 N 5/238 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/225 A

G 0 3 B 7/00 B

G 0 3 B 17/18 A

G 0 3 B 19/02

H 0 4 N 5/238 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 3 月 27 日 (2006.3.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 被写体像を電気信号に変換するための撮像素子を有する電子カメラにおいて、

被写体の輝度を検出するための測光手段と、

上記撮像素子へ入射する被写体光を遮光するために開閉可能なシャッター手段と、

上記測光手段の出力から算出した露光前の被写体輝度に関する第 1 のデータと、上記シャッター手段を開状態にしたときの上記撮像素子の出力から算出した露光レベルに関する第 2 のデータとに基づいて、上記シャッター手段が正常に動作したか否かを判定する判定手段と、

上記判定手段によって上記シャッター手段が正常に動作していないと判定された場合に、
 所定の警告を行う警告手段と、

を具備することを特徴とする電子カメラ。

【請求項 2】 上記判定手段は、上記第 1 のデータと上記第 2 のデータとの差が所定値以上の場合、上記シャッター手段が正常に動作していないと判定することを特徴とする請求項 1 に記載の電子カメラ。

【請求項 3】 上記警告手段は、視覚的にエラー表示を行うエラー表示手段であることを特徴とする請求項 1 に記載の電子カメラ。

【請求項 4】 さらに、上記判定手段によって上記シャッター手段が正常に動作していないと判定された場合に画像データの記録を行わないことを特徴とする請求項 1 に記載の電子カメラ。

【請求項 5】 上記シャッター手段は、フォーカルプレーンシャッターであることを特徴とする請求項 1 に記載の電子カメラ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明によれば、被写体像を電気信号に変換するための撮像素子を有する電子カメラにおいて、被写体の輝度を検出するための測光手段と、上記撮像素子へ入射する被写体光を遮光するために開閉可能なシャッタ手段と、上記測光手段の出力から算出した露光前の被写体輝度に関する第1のデータと、上記シャッタ手段を開状態にしたときの上記撮像素子の出力から算出した露光レベルに関する第2のデータとに基づいて、上記シャッタ手段が正常に動作したか否かを判定する判定手段と、上記判定手段によって上記シャッタ手段が正常に動作していないと判定された場合に、所定の警告を行う警告手段とを備えた電子カメラを提案する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、上記判定手段は、上記第1のデータと上記第2のデータとの差が所定値以上の場合、上記シャッタ手段が正常に動作していないと判定することを特徴にもつような上記発明に記載した電子カメラを提案する。

さらに、上記警告手段は、視覚的にエラー表示を行うエラー表示手段であることを特徴にもつような上記発明に記載した電子カメラを提案する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、上記判定手段によって上記シャッタ手段が正常に動作していないと判定された場合に画像データの記録を行わないことを特徴にもつような上記発明に記載した電子カメラを提案する。

さらに、上記シャッタ手段は、フォーカルプレーンシャッタであることを特徴にもつような上記発明に記載した電子カメラを提案する。